

総務広報委員会事業計画

総務広報委員会 委員長 松井 一樹

真岡青年会議所には51年間受け継がれ試行を重ね創造してきた伝統があります。在籍年数3年未満のメンバーが50%以上となり、伝承が困難になり得る一方、新鮮な発想や思考をもつ人材の増加を転機と捉え、一人ひとりが新たな伝統の構築に関わる事が必要です。また、広報は時代に合わせ様々な変化を繰り返してきました。LOMの運動を県東地域の人びとへ伝播させる手法の改善、次代に挑戦する効果的で影響力ある広報が必要です。

まずは、組織をより良い方向に導くために、総務が率先して運動に励み、聞く・示す・気づくに気を配るLOM運営をし、一体感ある真岡青年会議所を実現します。そして、メンバー全員が主体的に行動するために、動画を使用した内部広報を配信して基本を学び活動の意味や意義を知る機会を提供し、魅力溢れるLOM環境を創造します。さらに、1年間のベクトルを統一するために、受け継がれる厳粛な1月通常総会を開催し、事業方針の共有とともに使命感を湧き起こします。また、次年度体制を確立させるために、8月臨時総会を開催し、次代へむけての意欲を向上させます。そして、1年間の総括と次年度を効果的に始動させるために、1年間の成果を振り返り共有する12月臨時総会を開催し、次年度への期待を高めます。さらに、全メンバーの将来の可能性を大きく広げるために、各種大会や対外事業への参加意欲を推進する告知をし、自己成長の原動力になる視野拡大につなげます。また、地域の人びとに真岡青年会議所の魅力を広く伝えるために、気軽に情報を知ることが出来る発信方法に挑戦し、知名度向上とともに会員拡大運動を支援します。

基礎を学ぶことで伝統の構築ができ、仲間と困難に挑戦することで組織の結束を高め、その経験が地域社会に影響を与え、子供の可能性をも伸ばし、情熱を持ち挑戦し続けるリーダー達が多く在籍する輝き続ける真岡青年会議所を実現します。一步先へのチャレンジ。

<事業計画>

1. 厳格であり新たに築くLOM運営
2. 新たな手法で次代につなぐ広報委員会
3. 新しい視野でつなぐ会員拡大の実施
4. 2021年 とちぎ宇都宮大会へ向けて日本青年会議所、関東地区協議会、栃木ブロックへの参加及び協力